

令和４年度 第２回 三郷市青少年問題協議会会議録

開会の日時		令和５年　２月９日（木）　午後２時００分			
閉会の日時		令和５年　２月９日（木）　午後３時００分			
開催場所		全員協議会室			
出席状況		委員１１名　事務局　９名			
議　　題	(１)　青少年行政施策について (２)　意見交換 (３)　その他				
席次番号	委員氏名	摘要	席次番号	委員氏名	摘要
１	木津　雅晟	出席	１１	山崎　　治	出席
２	平井　雅三	出席	１２	神永　哲也	出席
３	太田　　恒	欠席	１３	内田　開斗	欠席
４	滝沢　　慎	出席	１４	清水　睦美	出席
５	三浦　　力	出席			
６	石井　和男	欠席			
７	篠宮　　尚	出席			
８	福岡　孝彰	出席			
９	谷口　喜久男	出席			
１０	岩間　かおり	出席			
事務局出席者名		大塚教育長、梅澤生涯学習部長			
		菅原学校教育部参事兼指導課長、加藤指導主事			
		羽ヶ崎生涯学習部副部長兼青少年課長、岩崎専門指導員、石井係長、森島係長、 田村主任			
会議の概要または特記事項 傍聴人数：０人					

	繋がりをネットの中に求めてしまっています。今、報道にもありますようにネットを通じて、フィリピンからの指令によってゲーム感覚で強盗のような重大な罪を犯してしまう。もし、自分自身で計画を練り、実行するのであれば、途中で躊躇することもあるでしょうが、ネットからの指令では責任感も半減してしまい犯罪に手を染めてしまいがちです。先ほどの指導課の発表であった自己指導能力を持った子、いわゆる社会参加ができる子供たちが育成されればこのような犯罪は少なくなると思われます。反社会的な子には、手を差し伸べてあげればいいですが、非社会的な子ども達には表に出ない中で罪を犯してしまうことから、自己指導能力は大きなキーワードになるなど思い聞いていました。私としても特殊詐欺等に加担してしまった子を保護司として担当させていただいたこともあります。自分で深く考えずに犯罪に加担してしまい、後に本当に浅はかであったと反省する。そのことから、やはり自己指導能力は大事なことだと感じております。
議長	ありがとうございます。保護司の立場から、お話しいただきましたが、青少年問題の課題解決として、地域との連携を図っていく必要があります。そこで地域と深く関わっている青少年育成市民会議委員の立場から、お話を伺えればありがたいと思いますのでよろしくお願いいたします。
委員	先ほどの青少年課の施策説明の中にも、私が申したいことが盛り込まれていたのですが、三郷市青少年育成市民会議発足のころから市民会議は何のためにあるのかというところを改めて考えると、やはり三郷市の青少年の健全育成を目指し、そのためには、地域の子ども達に対して何ができるのかということを含んで考え活動してゆく団体です。 我々が若いころの非行とは、暴走族、隠れたばこ、飲酒、夜遊びなどでしたが、今ではあまり目にしなくなってきました。反社会的なやっちはいけない行動がインターネットに隠れてしまって、なかなか見れない部分がたくさんあると思います。ここのところニュースをにぎわしていることでは回転寿司での迷惑行為、消毒用アルコールの引火動画などがにぎわしています。家族に何でこんなことをするのかと尋ねると、娘たちは「ニュースにあげるからだよ」と答えが返ってきました。では、このような行為を無くすには、どのようにしたらよいか。学校にも地域にもなかなかその答えは無く、やはりできることは家庭にその答えを求めていくことが一番良いのではと最近思っています。 不登校の問題もあります。私も中学校時代いじめがありました。でも母親がそれを助けてくれました。母が学校に怒鳴り込んできたことがありました。恥ずかしい思いもしましたが、自分には味方がいてくれるんだと思い、いじめにも屈しなくなり、学校に行くのも苦にならなくなったこともありました。自分が経験し

議長	たことしかなかなか人間は解りませんが、各々の経験、知識を集めたうえで、知恵を出し合いながら三郷市の子ども達楽しく毎日笑って過ごせるように、そんな活動のお手伝いをしていければと思っております。 学校や社会に自分の居場所がなく、実際にはネットの中でしか自分の居場所を見つけられない子もたくさんいます。しかし、その子たちを否定してしまったら、否定された子たちはどうすればいいんだという問題も中学生・高校生から聞きます。そうなる前に保護者や地域は何ができるのか。子ども達に対して一言声をかける地域の人たちは減りましたけれど、そういう活動からも、三郷の子ども達が楽しく笑って生活できる第一歩になるんじゃないかと、少しずつ思っていて活動しております。 ありがとうございました。青少年を取り巻く環境の変化の中で、青少年自身のコミュニケーション能力の低下も指摘されております。そこで、トランポリンの指導等を通じて青少年に接する立場から、話を伺えればと思いますのでよろしくお願いいたします。
委員	まず、感想というか現状ですが、実際問題、幼稚園の保護者、小学校に預けている保護者の皆さんは自分の子どもに対して、過剰なくらい複数の習い事を掛け持ちさせている方が非常に多いと感じられます。 私が指導するトランポリン教室以外にも、いろいろな習い事を掛け持ちしている子ども達が多くいると聞きます。我々としては、選手を育てたいという気持ちがあるのですが、あまりにも過剰すぎると思うと、保護者の方に「ちょっとオーバーフローですよ」「子どもが悲鳴を上げてますよ」という感じで、こちらから指導をお断りするケースもあるくらいです。子どもに特色を求めている保護者の方がすごく多いなということをこのごろ感じます。それは低学年の子どもだけではなくて、幼稚園の年中ぐらいの頃から、たとえば英会話スクール等から初めて、複数習い事を掛け持ちしているというのが感じられております。 青少年問題の解決策というのは、やはりどの委員のかたからの意見と同じく非常に難しいと愚直に思うのですが、一つの解決方法として保護者の皆様方が地元の小学校に6年間自分の子どもを預けて、「満足した」「地域のここの小学校に預けられてよかった」という満足度が、かなり上位になるということがいいのかなと思います。中学校も同じです。私は自分の子どもを、市外の中学校に進学させたのですが、その理由は「私の子どもを3年間ここの中学校に預けたい」と思うくらいに特色のある学校だったのです。これから、三郷市の小学校で、6年間子どもを預けると、こういうことが「できる」「身につく」ともって特色が出るようになると、小学校に通うだけで塾に行かなくても、子どもに大きな負担がかから

	ないような形で身につくものが身につけられるのかなと思います。 また、小学校生活の中で目標を達成するために、例えば、先程指導課の説明にありました全国いじめ子どもサミットにて、発表した3人の児童のような経験をする子どもがもっともって増えていくと、よりよい小学校生活が送れるのではないかと思います。 最後にどんな学校に行ったとしても、いじめという問題は必ずあるのですが、それを克服するためには、目標と目的があれば乗り越えられると思いますので、如何にして、その子とその子の保護者が目標と一緒に追いかけられるような関係性があれば、どんないじめに遭おうが痛くも痒くも無いのかなと思って子どもを育てておりました。また地域の子どもの、小学校に通えなくてもトランポリンの教室には来るという子は実際にいるので、そういう子たちの逃げ場になるような場所となり、そこでの指導によりハートが強くなるような子どもをこれからも育てるというか、お手伝いできる環境でありたいと思っています。 みんなで青少年の問題をこれからも議論を深めていきたいと思っています。
議長	貴重な体験の中でのお話ありがとうございました。 本来であれば、他の委員の皆さまからも、それぞれのお立場で取り組んでいらっしゃることや課題に感じられていることを伺いたいところですが、協議時間も少なくなっていました。全体で協議することがあれば、お聞かせいただきたいと思いますがいかがでしょうか。
委員	環境の問題があるのですが、三郷市全体の道路の照明が俯瞰的に見るとすごく明るいですが、実際歩いてみると暗い箇所があるので、もう少し道路の照明があれば、事故や非行などの問題も改善され、明るい三郷といったような地域のカラーリングができるかと思いますので、今後検討していくのもよろしいのではないかと思います。
議長	ありがとうございました。照明につきましては、極力明るさを保つようにはしているところですが、今後対応してまいります。それぞれの立場からここをこうしたらいいというご指摘等があれば、ご連絡いただければありがたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。 その他ございませんでしょうか。宜しいでしょうか。 それでは、他にご意見等がございましたら、会の終了後、事務局あてにお聞かせいただき、今後の協議会に生かしていきたいと思っています。 委員の皆様からまだまだたくさんのご意見等伺いたいところですが、時間の都合上、次に進ませていただきます。

事務局	(3) その他 続きまして、議事の(3)「その他」ですが、事務局から報告がありましたらお願いします。 次回の協議会日程について 7 閉 会 平井副会長
-----	---